

F-7 才ク報、仙台市居住者における老化現象の家族形態別配偶者有無別比較
代表者 後藤たへ ○後藤美代子

目的 才6報と同じ対象者について、老人のみの世帯とその他の家族と同居する世帯および配偶者の有り・無しに分類して、それぞれ老化度と項目評定を求めた。

方法 才2報に準じて行なった。

結果 家族の形態別では、機能・外見老化度はいずれも老人世帯の方が低く、その他の老化度には差がみられない。外見老化度に於てはいずれの世帯でも女性が高い。また、一般に老化度の高いのは外見・精神意識であつた。項目ごとに見れば、老人世帯は機能において「視力」・「聴力」、外見において「目」・「歯」が低く、精神意識の話し相手は高い。

配偶者の有無別では、総合・外見・精神意識の老化度はいずれも無しの方が高い。配偶者有りの中では、外見で女性が高い。また、家族形態別同様、外見・精神意識の老化度が一般に高い。項目ごとに見れば、配偶者無しでは機能において「不眠」・外見で「歯」、精神意識で「支持の変化」・「家庭内の話し相手」・「家庭外の役割」・「孤独感」が高い。

以上はいずれも有意であつた。

さらに、家族形態と配偶者の有無間、およびそれぞれの性別についても検討を行なった。

なお、この研究は宮城学院女大、宮城教大、尚絅短大、仙台白百合短大の研究員の共同研究によるものである。